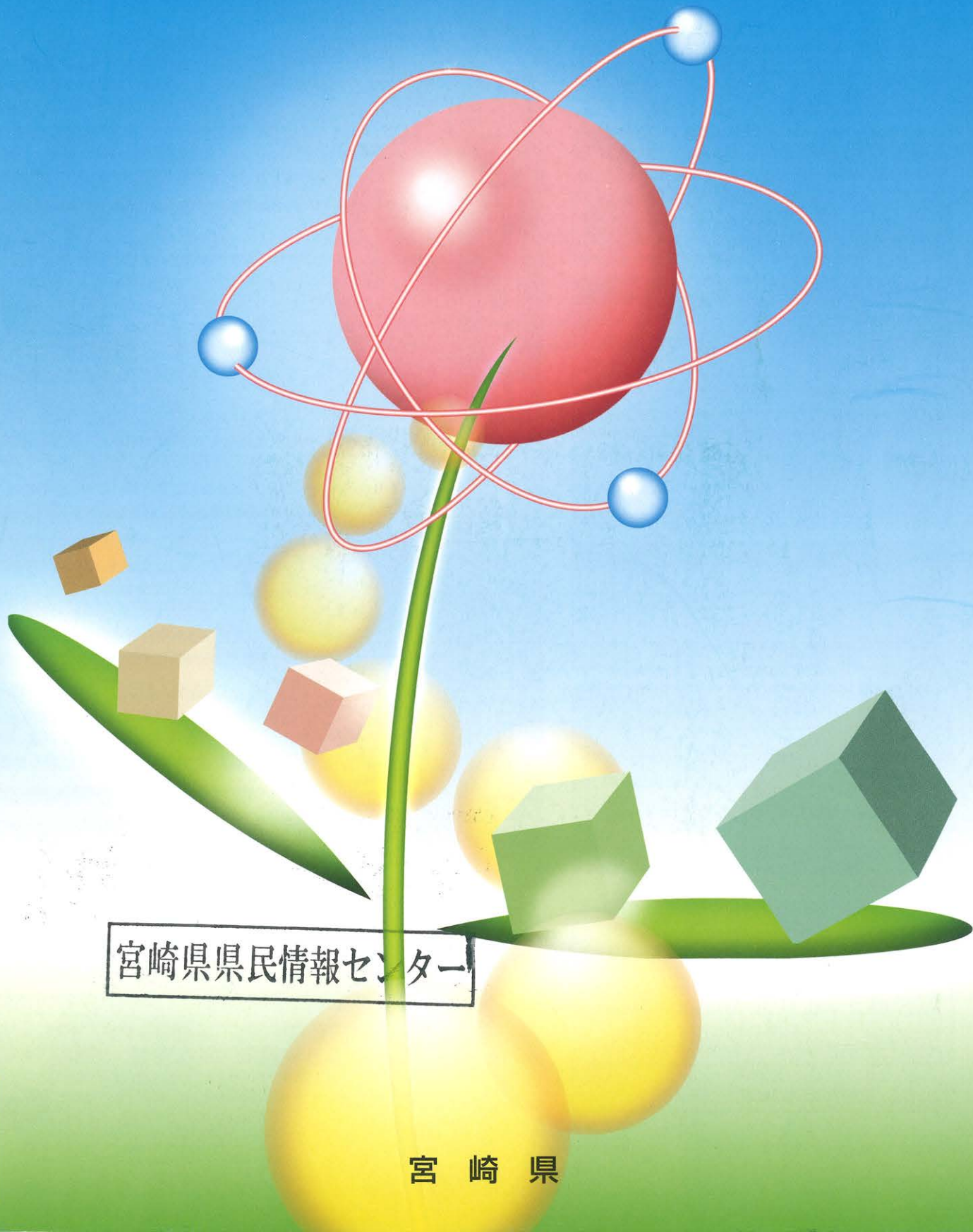


元気みやざき農業・農村創造計画

～第六次 宮崎県農業・農村振興長期計画～

【概要版】



宮崎県県民情報センター



元気な担い手で創る みやざき 食と農の新時代

～たゆみなき挑戦と参画～

変化の潮流

- 少子・高齢社会の到来**
 - ・基幹的農業従事者 65歳以上の割合45% (H15)
 - ・耕作放棄地の増加 2,959ha (H12)

担い手育成の必要性、規模拡大・新規参入の可能性
- 安定的な食料供給の期待**
 - ・食料自給率の低下 73%(S43) → 40% (H15)
 - ・国内生産力の低下 61,775千t(S40) → 61,656千t(H15)

今こそ食料供給県としての役割発揮
- 国際化の進展**
 - ・輸入農産物の急増 42千t(S40) → 2,806千t(H15)

産地競争力の強化、農産物の輸出可能性
- 高度情報化・技術革新**
 - ・IT技術、バイオテクノロジーによる産業構造の変化

新技術活用による新たなビジネスチャンスの拡大
- 食の安全・安心志向の高まり**
 - ・多発する食品事故、偽装表示、BSE等の発生
 - ・消費者の食への不安増大 食に不安が39.4%(H16)

消費者の食への信頼回復が急務
- 地球温暖化や環境問題への対応**
 - ・平均気温の上昇や降雨パターンの変化 (100年で1.1～1.3℃上昇)
 - ・地球規模での環境問題の顕在化

地球環境に配慮した農業への転換
- 農村の活力低下**
 - ・農村地域の人口減 773千人(S45)→659千人(H12)
 - ・多面的機能を評価する動き 農業で8兆2,226億円(全国)

農村の「ふるさと」としての価値再評価
- 社会・経済システムの変化**
 - ・心の豊かさを求める気運、ライフスタイルの変化
 - ・地方分権の動き、国と地方との枠組みの変化

地域の創造力と個性発揮に期待

課題を克服し変化をチャンスに飛躍!

食と農の構造改革

意欲ある「担い手」をはぐくむ

- **元気な地域農業の確立**
 - 集落カルテ整備、元気な地域農業創効率的な地域営農システムへの移行、
- **本県農業を支える企業の経営体**
 - 地域農業の核となる認定農業者・法人経営体の育成、「農家」から「経営体」への意識改革、経営安定対策充実
- **次代を担う多様な担い手づくり**
 - 即戦力の新規就農者育成、女性の経営参画促進、高齢者活躍の場づくり、他産業からの農業参入

力強い「産地」をはぐくむ

- **知恵と工夫で創る「みやざきブランド」の新展開**
 - 「ほんもの」づくりの推進、「いのち 残留農薬分析等日本一の安全・安心」のレベルアップ、健康をキーワードとした商品開発、トップセールスの構築
- **輸入に打ち勝つ力強い生産構造**
 - 競争力強化のための産地構造改革、家畜防疫など農の危機管理強化、物流体制構築、農産物輸出促進
- **効率的で生産性の高い農業を支える基盤の整備**
 - 経営体育成と一体となった基盤整備、新しい畑作営農体系、災害に強い生産体制、ストックマネジメントによる営農支援
- **新たな技術開発・普及と情報化による営農支援**
 - 「安全・安心」、「健康」、「環境」に対応する技術開発、産学公民連携による研究促進、知的財産の保護・活用展開、農業経営技術データベース、みやざき農業情報案内システム
- **価値を広げる産業連携の強化**
 - 食品加工、焼酎・飲料メーカー、外食・中食産業等多様な業種との連携強化、アグリビジネスの創造、産地加工

安全な「食」をはぐくむ

- **食卓と産地を安全・安心でつなぐ**
 - 宮崎県食の安全・安心基本方針、定着化
- **県民総参加による食農ネットワークづくり**
 - みやざきの食ルネサンス運動(食育・地産地消)の展開、学校教育・学校給食との連携強化

健全な「環境」をはぐくむ

- **環境と調和した生産活動の推進**
 - 耕畜連携による土づくり徹底、みやざきエコ3倍化プラン(エコファーマー・特別栽培等)、バイオマス総合戦略
- **環境を保全し、心やすらぐ田園空間の創造**
 - 自然環境の保全、多面的機能の維持・増進、農業・農村への理解促進

元気な「地域」をはぐくむ

- **自ら考え実践する個性を活かしたむらづくり**
 - ふるさと資源の再発見、地域の力を結集した農村起業化、中山間地域等直接支払制度、農村コミュニティ活動促進、コーディネーター育成、実践者ネットワークの構築
- **交流・連携による農村からの元気発信**
 - 農とふれあうグリーン・ツーリズム

食農ネットワークづくり

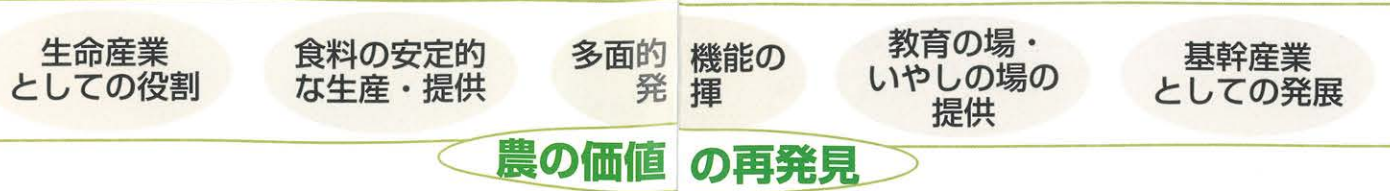
出プラン策定、農地総合管理による小規模所有・大規模経営の仕組みづくり、集落営農の本格推進、市町村・JA等による広域支援体制整備

人経営体の育成、「農家」から「経営体」への意識改革、経営安定対策充実

営参画促進、高齢者活躍の場づくり、他産業からの農業参入

新展開

の恵みに感謝する県の情報発信、「情熱みやざき産地とたくみ宣言」の徹底、のレベルアップ、健康をキーワードとした商品開発、トップセールスの構築



めざす将来像

| 多様な「担い手」が元気に活躍する農業・農村 | |
|-----------------------|---------------------|
| | (H15) (H21) |
| ・認定農業者数 | 7,073経営体 → 7,700経営体 |
| ・農業法人数 | 456法人 → 590法人 |
| ・集落営農組織数 | 13組織 → 100組織 |
| ・新規就農者数 | 218人/年 → 255人/年 |

| 個性豊かで競争力のある「産地」が展開する農業・農村 | |
|---------------------------|-------------------|
| ・商品ブランド産地数 | 54産地 → 80産地 |
| ・農業産出額 | 3,108億円 → 3,250億円 |
| ・畑地かんがい整備面積 | 5,616ha → 7,500ha |
| ・普及技術開発件数 | 延べ220件/(H17～H21) |

| 消費者と生産者が「食」を通じて強い絆で結ばれた農業・農村 | |
|------------------------------|-----------------|
| ・残留農薬分析件数 | 4,017件 → 5,500件 |
| ・地産地消協力員 | 750人 → 1,000人 |
| ・食育活動取組学校割合 | 70% → 88% |

| 「環境」と調和しながら持続的に発展していく農業・農村 | |
|----------------------------|-------------------|
| ・エコファーマー認定件数 | 1,344件 → 5,000件 |
| ・特別栽培農産物等栽培面積 | 1,437ha → 4,000ha |
| ・家畜排泄物処理施設整備率 | 77.2% → 100% |

| 個性を活かして「地域」が輝く農業・農村 | |
|----------------------------|-------------------|
| ・農林漁業体験民宿数 | 39ヶ所 → 60ヶ所 |
| ・グリーン・ツーリズムインストラクター等資格取得者数 | 9人 → 60人 |
| ・直接支払協定面積 | 5,298ha → 5,500ha |

| ◎ 基本フレーム(H15 → H26) | |
|---------------------|---------------------|
| ・総農家数 | 53,363戸 → 42,500戸 |
| ・農業就業人口 | 68,997人 → 46,800人 |
| ・耕地面積 | 70,600ha → 66,000ha |
| ・農業産出額 | 3,108億円 → 3,400億円 |

「元氣みやざき農業・農村の創造をめざして」

「食料」と「環境」の世紀と言われる今世紀こそ、消費者の信頼と期待に応えて、本県農業・農村がその潜在する力を最大限に発揮し、更に飛躍するチャンスであります。

私たちは、常に「攻め」の姿勢で、持続的に発展する農業・農村づくりに挑戦しつづけ、本県農業・農村の新たな創造をめざします。

計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本計画は、かつて経験したことのない大変革の時代にあって、農業者一人ひとりが将来に向けて希望と誇りを持って取り組める農業の確立と、誰もがそこに住み、訪れることで喜びを感じるのことができる農村づくりをめざして、また、農業者はもとより県民の皆様にも、計画推進の主人公として参画していただきたいとの思いも込めて策定したものです。

2 計画の性格と役割

今後の県政運営の基本方針を示す「宮崎県総合長期計画～元氣みやざき創造計画～」の農業・農村部門の計画として、県農政推進の基本指針となるものであり、農業者をはじめ、市町村、農業関係団体等の諸計画や地域の農業・農村活性化のための施策推進の共通の指針として、活用されることを期待しています。

3 計画の構成

計画は、「長期ビジョン」「基本計画」「地域別計画」の3編で構成します。

4 計画の期間

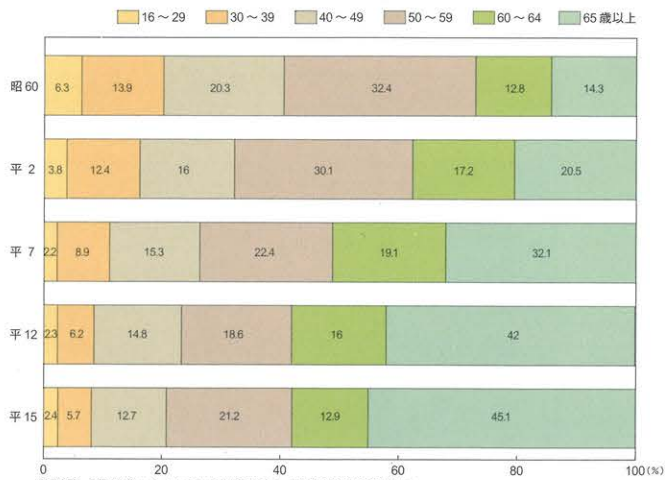
平成17年度を初年度とし、平成26年度を目標とする10カ年計画とします。

なお、「基本計画」は、具体的な施策展開について記述することから平成17年度から21年度までの5カ年を計画期間とします。

I 変化の潮流

1 少子・高齢社会の到来と農業就業人口の減少

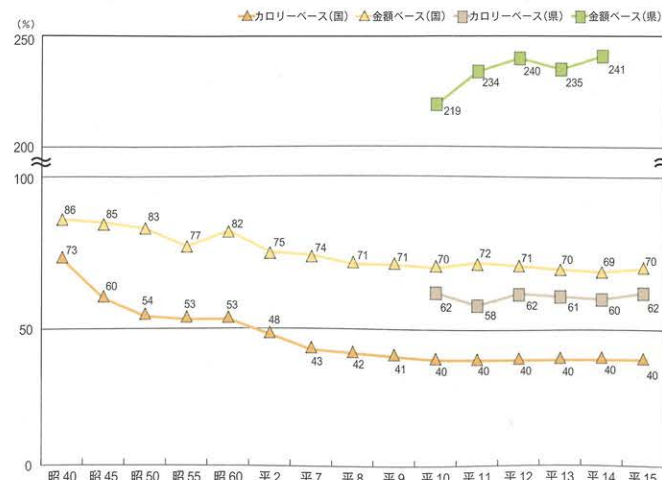
基幹的農業従事者の年齢別構成



(資料)「農林業センサス」「農業調査」「農業構造動態調査」
注1：平成3年からは、調査対象が販売農家のみになった。
注2：平成7年、12年、15年の「16～29歳」は、「15～29歳」

2 安定的な食料供給への期待

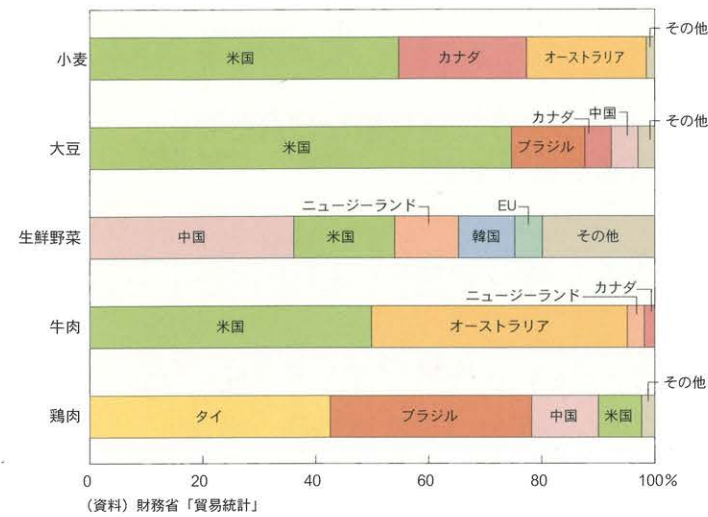
食料自給率の推移



(資料)平成15年度食料自給率レポート

3 国際化の進展

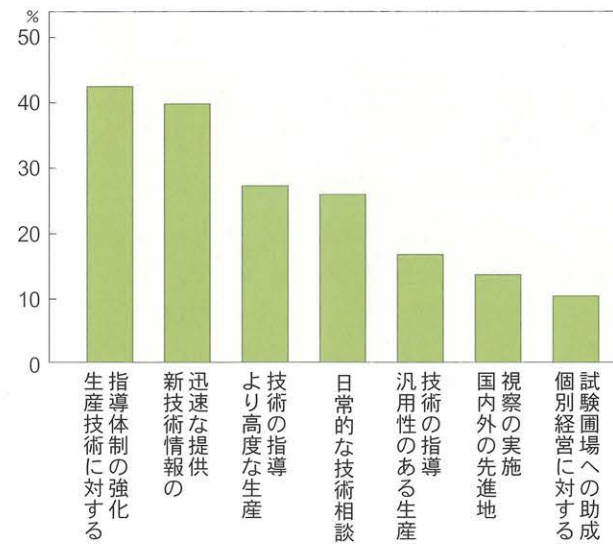
我が国の主要農産物の国別輸入割合(平成15年)



(資料)財務省「貿易統計」

4 高度情報化と技術革新の進展

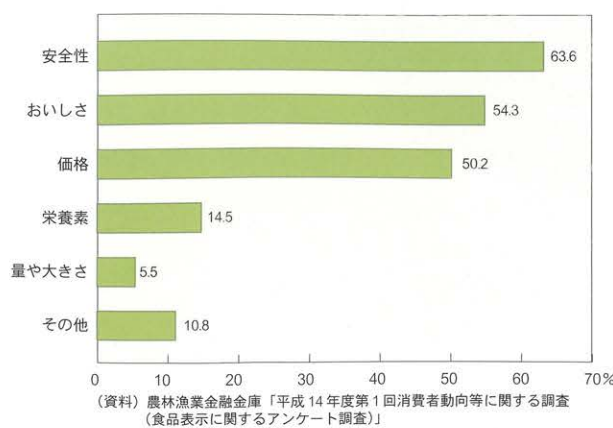
技術の高度化のため、今後求められる支援策(複数回答)



(資料)全国農業会議所「認定農業者の経営改善計画達成に有効な支援手法のあり方に関するアンケート調査結果」(16年3月公表)

5 食の安全・安心志向の高まりと食料消費の多様化

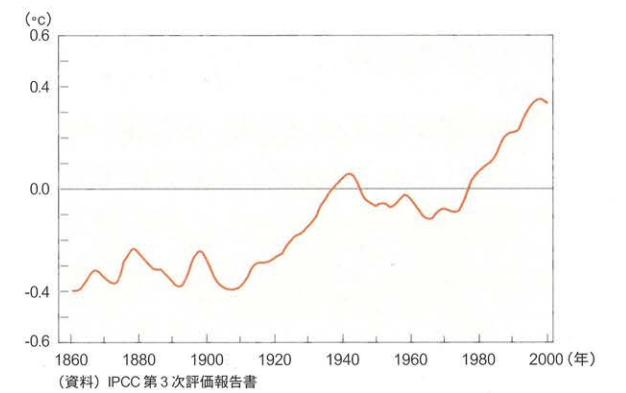
食品購入時における消費者の意識・関心



(資料)農林漁業金融庫「平成14年度第1回消費者動向等に関する調査(食品表示に関するアンケート調査)」

6 地球温暖化や環境問題への対応

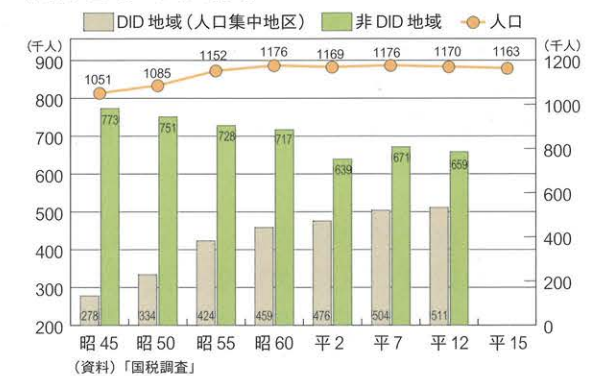
地球の平均気温の変化(地球全体/過去140年)



(資料)IPCC第3次評価報告書

7 中山間地域等における農村の活力低下・多面的機能への期待の高まり

農村地域の人口推移



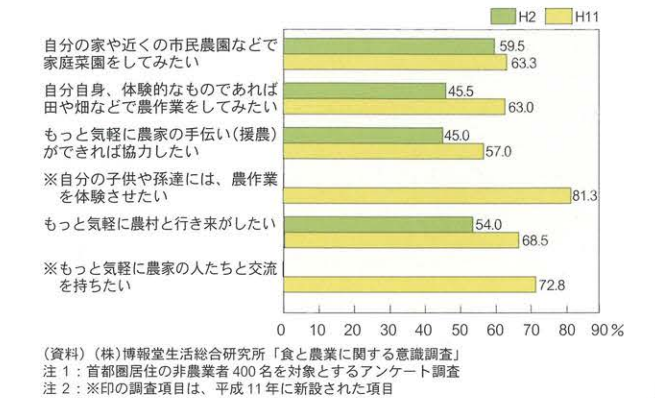
農業の多面的機能の評価

| | 宮崎県 | 全国 |
|-----------|-------|--------|
| 洪水防止 | 663 | 34,988 |
| 河川流況安定 | 225 | 14,633 |
| 地下水かん養 | 2 | 537 |
| 土砂浸食防止 | 49 | 3,318 |
| 土砂崩壊防止 | 70 | 4,782 |
| 有機性廃棄物処理 | 2 | 123 |
| 気候緩和 | 2 | 87 |
| 保険休養・やすらぎ | 353 | 23,758 |
| 合計 | 1,366 | 82,226 |

注：全国は日本学術会議による試算(H13.11)
宮崎県は日本学術会議の試算方法を参考にしたもの(H15.3 地域振興課)

8 価値観やライフスタイル・社会経済システムの変化

都市住民の農業・農村への関心の高まり



(資料)(株)博報堂生活総合研究所「食と農業に関する意識調査」
注1：首都圏居住の非農業者400名を対象とするアンケート調査
注2：※印の調査項目は、平成11年に新設された項目

II 計画の目標とめざす将来像

1 計画の目標

農業県宮崎の特性を生かした、個性ある農業・農村づくりに取り組むに当たり、私たちはそれぞれの元気を結集するために共通の目標を掲げます。

『元気な担い手で創る みやざき食と農の新時代 ～たゆみなき挑戦と参画～』

この目標は、担い手の高齢化や食の安全・安心をめぐる事件等により、「食」と「農」の距離が遠くなったと言われる今日、明日の本県農業・農村を支える「元気な担い手」の育成・確保が今後10年間の最も重要な課題であり、積極果敢な挑戦と新しい農業・農村づくりへの幅広い県民の参画こそが、この宮崎における新たな農業のキーワードです。

これまで本県では、台風の襲来による農畜産物等の被害を避けるための防災営農対策や、集落営農の展開を全国に先駆けた暖地営農むらづくり対策、さらには中山間地域の立地条件を逆手に取った立体園芸振興対策、輸入農畜産物に打ち勝つ付加価値戦略としてのみやざきブランド対策などの先駆的な取組により時代をリードしてきましたが、これからも新しい時代の扉を開くために、関係者が一丸となり、たゆみなく挑戦し、農業者・消費者を問わず、すべての「県民が主役」となって、「食と農の新時代」を切り拓いていくことを目標として掲げています。



2 めざす将来像

目標の実現に向けて、それぞれの力を結集するため、本県農業・農村のめざす将来像を「担い手」、「産地」、「食」、「環境」、「地域」の5つの視点から提起します。

(1) 多様な「担い手」が元気に活躍する農業・農村

- ◎ 意欲ある農業者が希望と誇りを持って自らの農業経営の目標に生き活きと挑戦し、また、農村を力強く支えています。

夢を持った新規就農者が確保されるとともに、意欲ある農業者が年齢や性別等にかかわらず、向上心と充実感を持って元気に活躍しています。

地域農業を担う中核的な経営体やこれを支える組織が育ち、しっかりと農地を守り、地域の舵取りをしています



(2) 個性豊かで競争力のある「産地」が展開する農業・農村

- ◎ 宮崎の自然条件を最大限に活かしたブランド産地が数多く形成され、「安心日本一の食料供給県」としての地位を確かなものにしています。

沿海地帯から山間地域まで、地域の立地条件を活かした「適地適作」を基本に、多様で個性的な産地が形成されています。

県民の誰もが自信と誇りを持って紹介できる、宮崎ならではの特長あるブランド品目が数多く生産され、それらを確実に県内外の消費者に供給する体制が確立しています。

国内外との厳しい産地間競争に打ち勝つ、高い技術力と情報力を備えた競争力のある低コスト・高品質生産体制を実現しています。

地域の立地条件に応じた生産基盤の整備が着実に進み、効率的で生産性の高い農業を展開しています。

食品産業や観光産業等他産業との連携のもと、新しいアグリビジネスの芽が育ってきています。



(3) 消費者と生産者が「食」を通じて強い絆で結ばれた農業・農村

◎ 消費者と生産者の交流が進み、そこには互いの信頼関係がしっかりと築かれています。

生産者は、消費者ニーズに基づく安全・安心な食料の安定的な生産に取り組むとともに、生産に関する情報などを積極的に提供しています。

消費者は、食育などを通じて、自分たちの健康や豊かな暮らしを支える「食」の大切さ、そして、それを供給する農業・農村の役割や重要性を十分に理解し、生産者とともに、農業・農村をかけがえのない財産として、大切に守っています。



(4) 「環境」と調和しながら持続的に発展していく農業・農村

◎ 環境に配慮した農業が展開され、緑豊かな自然、それを形づくる生き物、水、空気、土が宮崎の太陽のもとで美しく輝いています。

宮崎の環境と調和した資源循環型の農業が広がり、エコ野菜等の取組も活発になるとともに、農業生産に伴う廃棄物などの適切な処理やリサイクルが進んでいます。

農業生産活動を通じて美しい景観が形成されるなど、農業・農村の持つ多面的な機能が十分に発揮されています。



(5) 個性を活かして「地域」が輝く農業・農村

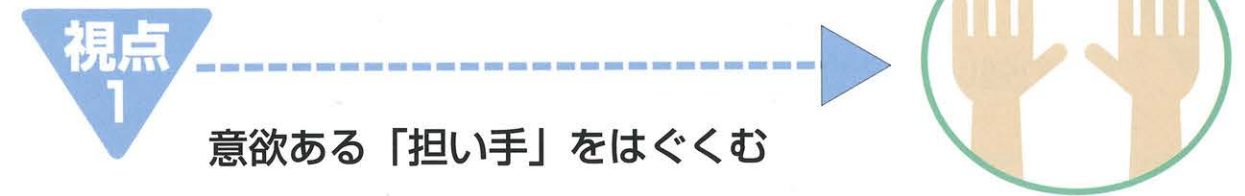
◎ 地域の創意工夫と個性豊かな資源が十分に活かされ、そこにしかない魅力が、地域を一杯に満たしています。

中山間地域など、豊かな自然に囲まれたゆとりある環境のもとで、地域ごとにその地域にしかない「宝」を活かしたむらづくりが、住民自らの創意と工夫のもとに行われています。

定住環境の整備や都市との交流などが進み、そこに住む人、訪れる人たちが、多様な夢を実現しています。

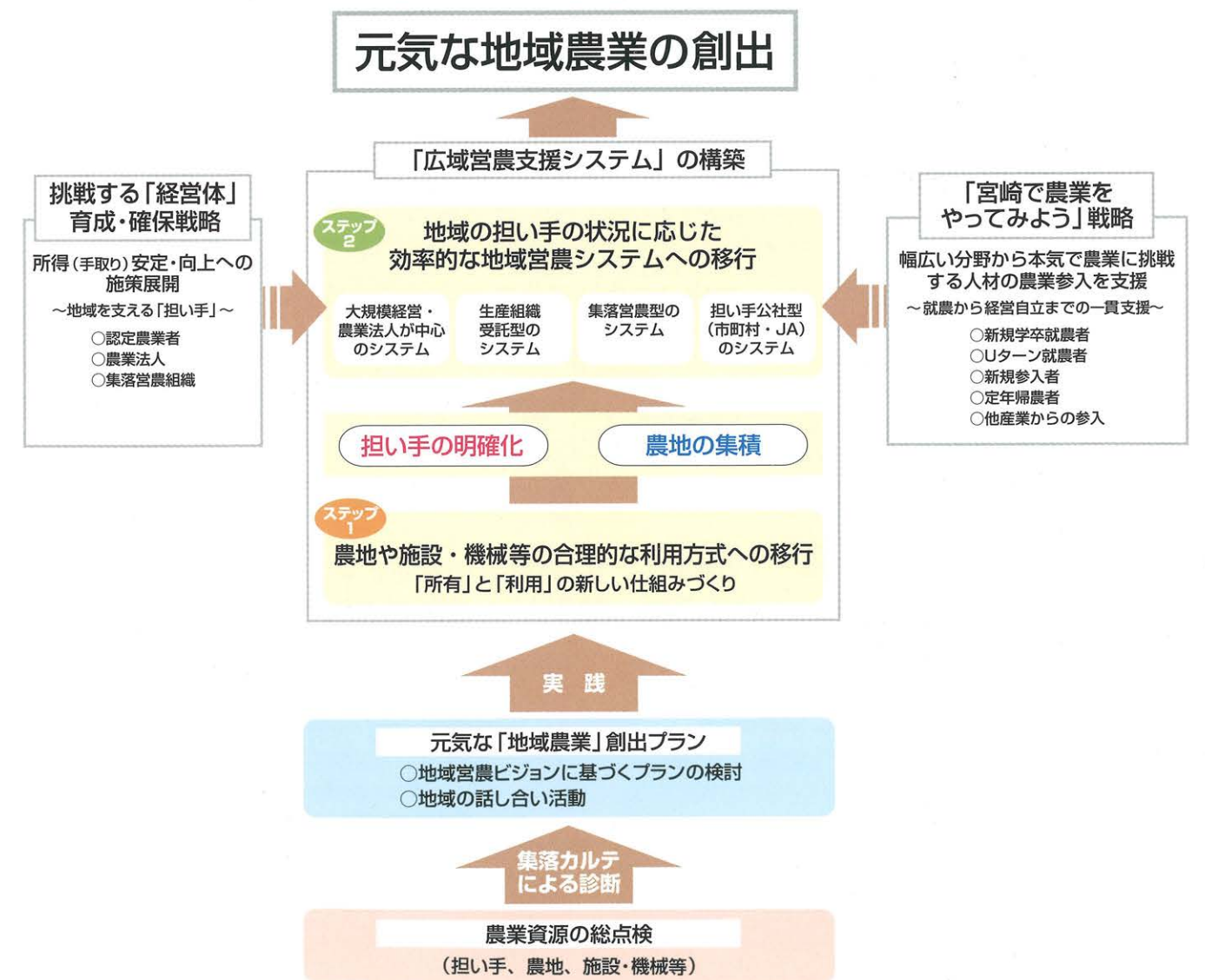


5つの視点からのアプローチ



担い手の高齢化、減少が避けられず、集落の維持さえも懸念される時代にあって、経営感覚に優れた農業経営者の育成と収益性の高い農業の実現により、「農業は魅力がない（儲からない）から担い手が育たない」という悪循環を脱し、「農業は魅力がある（儲かる）から担い手が集まる」という良い循環を作り上げる必要があります。

「農家」から「経営体」へのステップアップをめざした経営重視の担い手育成とそれを支える地域マネジメントの強化、さらには、多様な人材の農業への参入促進を柱に、「元気な地域農業」の実現とそれを支える「担い手」づくりに挑戦します。



視点2

力強い「産地」をはぐくむ

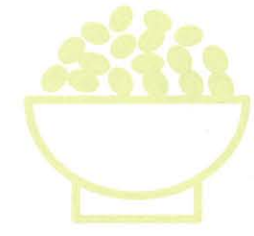


消費者ニーズの多様化に加え、海外からも多くの農畜産物が輸入される時代にあって、需要に応じた特色ある多様な産地づくりと確かなものづくりに立脚した販売力の強化により、消費者や実需者の評価を他産地に先んじて勝ち取る必要があります。

新技術・普及・情報を駆使した競争力のある産地への構造改革と食の安全・安心をめざすブランド戦略の推進、産業連携による新たなアグリビジネスの創造を柱に、「日本一安心な食料供給県みやざき」の実現とそれを支える「力強い産地」づくりに挑戦します。

視点3

安全な「食」をはぐくむ

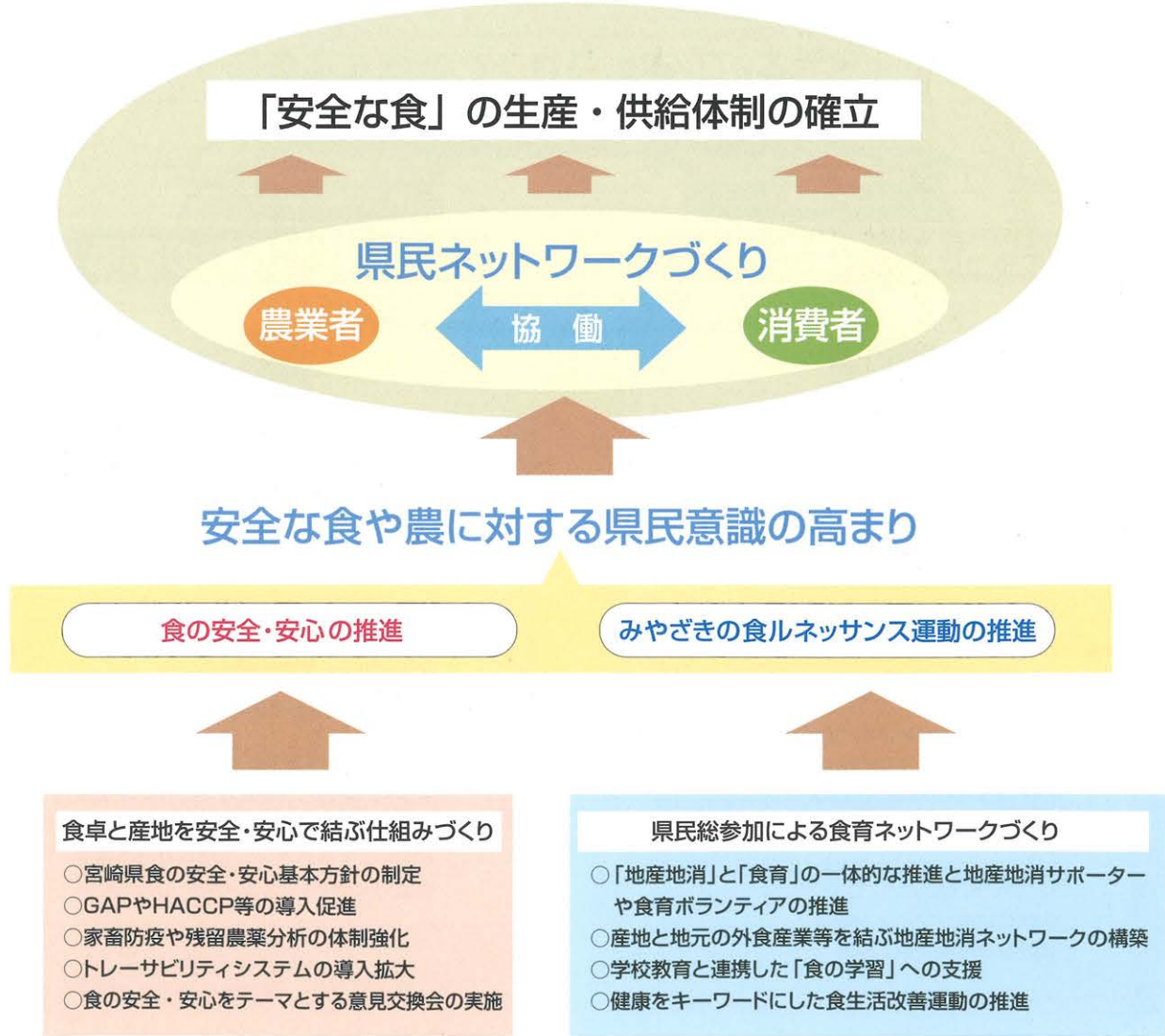
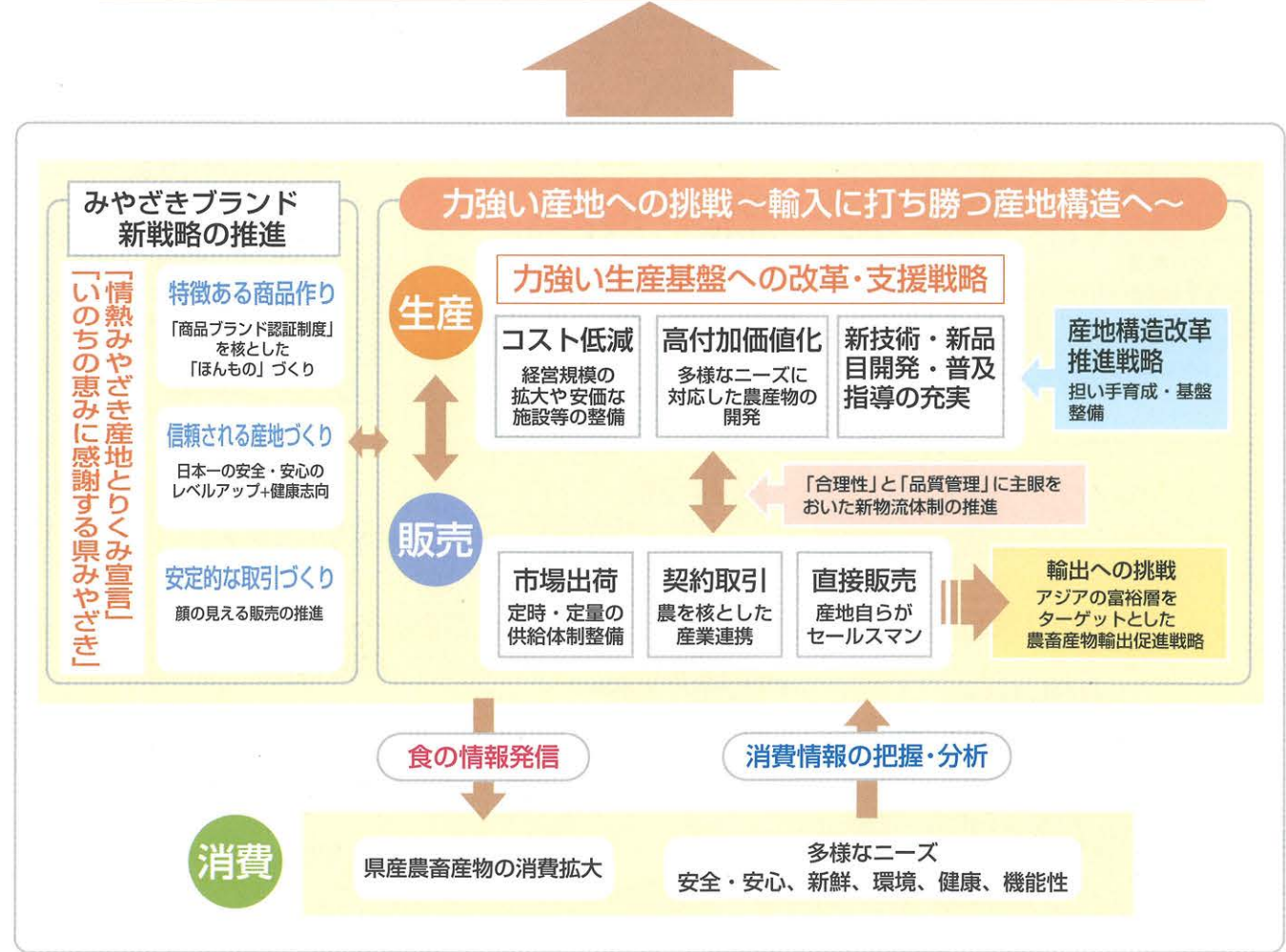


食の安全性に関する消費者の関心が高まる中で、県産農畜産物に対する消費者の信頼を確かなものにするためには、人々の生命と健康を支える「食」の原点に立ち返り、食料供給県の責任において「食」の安全・安心を確保していく必要があります。

また、食とそれを支える農について、幅広い県民の理解促進を図り、農業県宮崎として、みんなで食と農のことについて考えていくことが重要です。

農業者はもとより、幅広い県民との協働により「安全な食」の生産・供給とそれを支える「県民ネットワーク」の構築に挑戦します。

日本一安心な食料供給県みやざきの実現



視点4

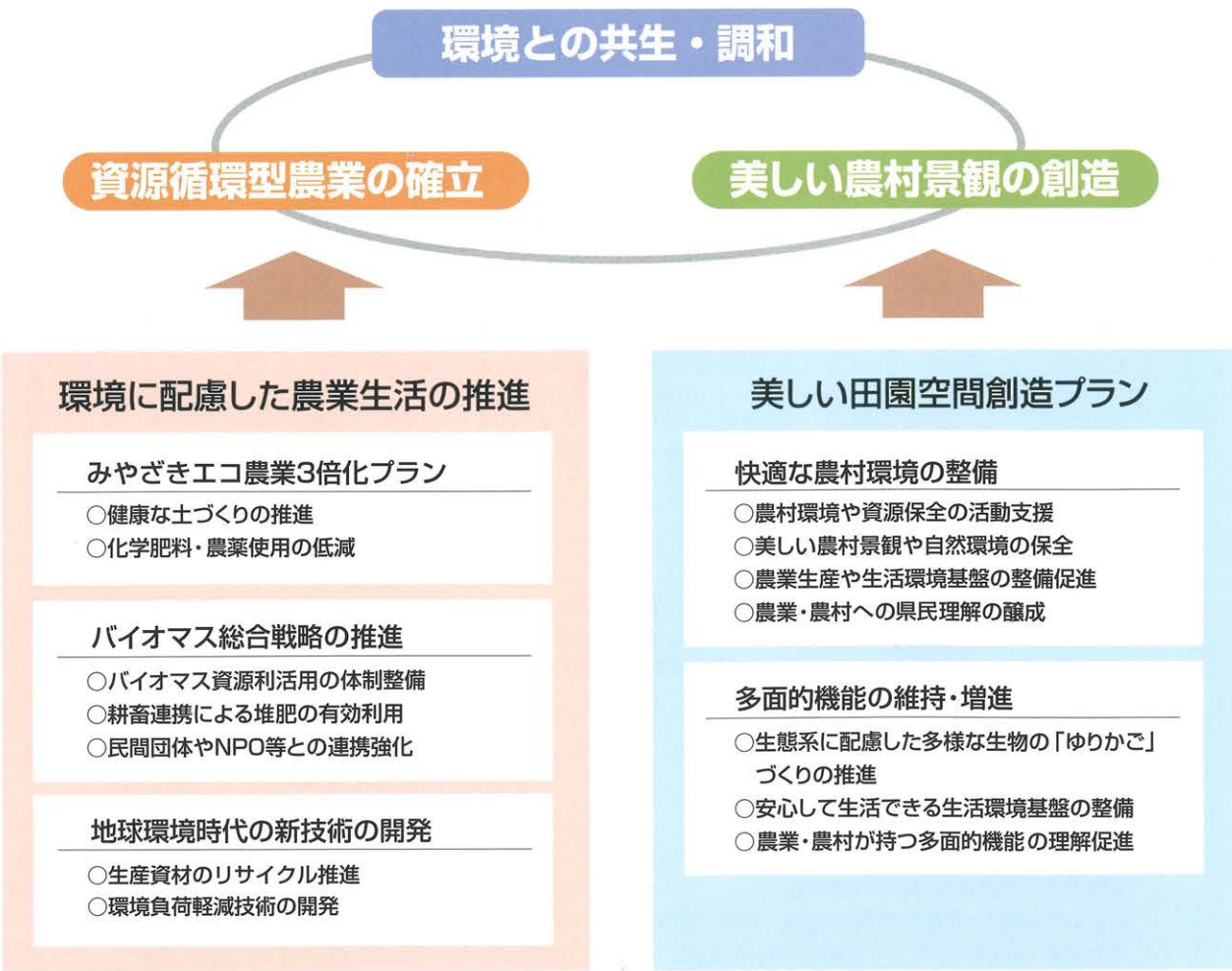
健全な「環境」をはぐくむ



21世紀は環境の世紀といわれており、環境を価値観の中心に据えた「地球市民」としての責任発揮と環境に配慮した持続的農業の展開、さらには、宮崎の特長を活かした資源循環型農業の確立が求められています。

また、近年のゆとりややすらぎを求める気運の高まりを受けて、美しい農村づくりへの期待も高まっています。

宮崎の特長を活かした農業・農村づくりの推進を通じて、環境との共生・調和、美しい農村景観の創造、県民の誰もが誇れる農村文化の保存に挑戦します。



視点5

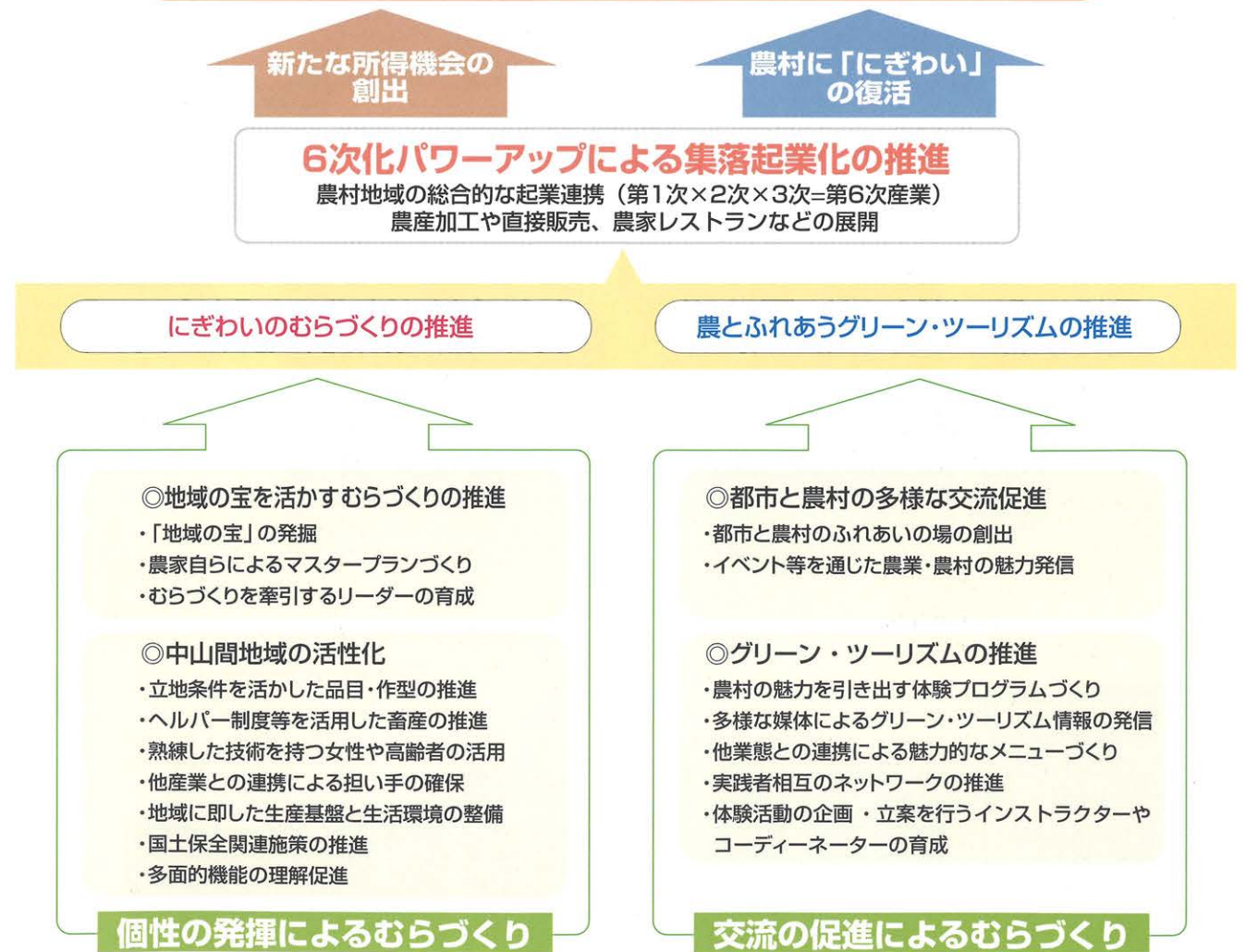
元気な「地域」をはぐくむ



農村地域においては、担い手の減少や高齢化が都市部に比べて早いテンポで進んでいることから、住民総参加のもとに、地域の「元気」づくりに取り組む必要があります。

その地域にしかない「ふるさとの宝」を発掘し、その「宝」を中心に、地域ならではの「物語」を作り、そこに住む人も訪れる人も、夢を語り合う、元気にぎわいのある地域づくりに挑戦します。

元気で個性ある地域づくりによる「ふるさと」の再生



IV 地域別計画

これからの農業・農村は今まで以上に、担い手を重要視した人づくり、地域（産地）づくりが求められており、本計画では人・地域が主役の計画づくりを通して、それぞれの地域が特長を活かして発展することを目指しています。

このため、長期ビジョンや基本計画を踏まえながら、担い手や産地など地域の特性や課題に応じた地域振興方策を示します。

西臼杵地域

多様で力強い担い手の育成や、高付加価値型農業及び肉用牛地域一貫生産システム等による「みやざきブランド」産地づくり等、地域の特性を活かした中山間地農業の生産振興を図るとともに、環境に配慮した生産性の高い生産基盤の整備や、農村文化を活用したグリーン・ツーリズムや農村起業による個性豊かな地域の活性化を進めます。



夕日の里づくり(五ヶ瀬町)



高千穂ひのかげくり(高千穂町・日之影町)

西諸県地域

「元気な担い手と消費者の協働で創る霧島山麓農業・農村の新時代」を基本に、新しい地域営農システムへの挑戦や、地域水田農業と畑かん営農への取り組みによる安全・安心のブランド品目の推進など消費者と生産者の信頼関係を構築し、地域全体の生産額の1割アップを目指す「テンポイントパワーアップ！運動」に取り組みます。



南ながえ村生産組合(えびの市)



子牛育成牛郡品評会(西諸県地域)

北諸県地域

地域の特性を生かした効率的な地域営農システムづくりを推進し、高品質な農畜産物を安定供給できる信頼される産地づくりや資源循環型農業づくり、さらには畑地かんがい施設の整備等を促進するとともに、グリーン・ツーリズムの取組支援や他産業との連携により地域全体の活性化に努めます。



租飼料多給運動による高品質な子牛づくり(北諸県地域)



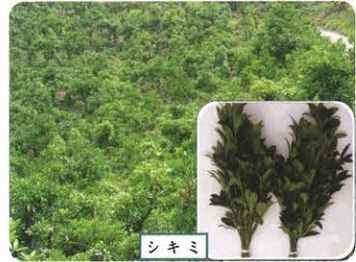
多孔かん水チューブによるにんじんへの散水(都城市)

東臼杵地域

地域の実態に応じた担い手確保体制等を整備し、認定農業者を中心に意欲ある経営体を育成するとともに、標高差を活かしつつ、「安全・安心」な農畜産物の安定生産や基盤整備に取り組み、更なるブランドの確立と地域農業づくりを推進します。



畜産と林業の共生「林内放牧」(諸塚村)



斜面を活用したシキミ栽培(北川町)

児湯地域

環境と調和した資源循環型農業を基本に、耕種と畜産が連携・強調した多彩な農業生産を展開し、特色ある多様なブランド産地づくりや、地域に集積する教育・試験研究機関等との連携を図り、地域農業の担い手の育成に努めるとともに、グリーン・ツーリズムの推進により、活力ある農村づくりを進めます。



マンゴー:「太陽のタマゴ」(西都市)



女性農業者による活動(児湯地域)

中部地域

地域の特性を活かした生産振興を推進し、生産基盤の整備や消費者ニーズへの対応、地域農業の担い手の育成・確保に取り組みます。また、住民自らが地域づくりを考え、実践する体制づくりを進め、活力ある農業と活気あふれる農村づくりを推進します。



自然生態系農業と有機農産物等の取り組み(綾町)



商品ブランド認証品目「日向夏」の産地化(中部地域)

南那珂地域

地域農業を牽引する多様な担い手の育成や、安全・安心で地域の特性を活かした付加価値の高い農畜産物の生産を推進するとともに、地域の実情に即した生産基盤の整備や持続性の高い農業の実現、グリーン・ツーリズムなど都市と農村の交流を進め、魅力的で元気のある農村づくりを進めます。



坂元柵田オーナー制度(日南市)



日本一の産地 ～スイートピー～(南那珂地域)

V 主要指標

1 農業構造の展望

(1) 農家と農業従事者

本県農業を支えてきた「昭和～桁世代」の農業者が70代を迎え、現在、基幹的農業従事者の45%が65歳以上という実態にあり、近年の年齢構成の推移等から推計すると今後10年間に、基幹的農業従事者数は現状の6割程度に減少すると予測されます。

(単位：戸、人、%)

| 項目 | 基準年次 (平成15年) | 中間年次 (平成21年) | 計画年次 (平成26年) | 対 比 | |
|---------------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| | | | | 21年/15年 | 26年/15年 |
| 総農家数 | 53,363 | 47,000 | 42,500 | 88.1 | 79.6 |
| 販売農家数 ^{※1} | 39,280 | 33,000 | 29,000 | 84.0 | 73.8 |
| 主業農家数 ^{※2} | 14,300 | 12,000 | 10,000 | 83.9 | 69.9 |
| 農業就業人口 | 68,997 | 57,500 | 46,800 | 83.3 | 67.8 |
| 基幹的農業従事者数 | 47,922 | 37,800 | 29,000 | 78.9 | 60.5 |

注) 総農家数には、農業法人を含む。

(2) 地域を支える担い手

農業従事者の大幅減少が懸念される中、認定農業者・農業法人・集落営農組織を育成して、農地の利用集積を図ることにより、地域農業の核となる新たな担い手の育成に努めます。

(単位：経営体、法人、組織、%)

| 項目 | 基準年次 (平成15年) | 中間年次 (平成21年) | 計画年次 (平成26年) | 対 比 | |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| | | | | 21年/15年 | 26年/15年 |
| 認定農業者数 | 7,073 | 7,700 | 7,900 | 108.9 | 111.7 |
| 農業法人数 | 456 | 590 | 720 | 129.4 | 157.9 |
| 集落営農組織数 | 13 | 100 | 145 | 769.2 | 1,115.4 |

注) 集落営農組織数には、農用地利用改善団体を含む。

(3) 耕地面積

耕地面積は、今後も農地転用やかい廃等により減少傾向が続くと予想される中、生産基盤整備の推進、土地利用集積、中山間地域等直接支払制度の活用等により耕作放棄の抑制を図るとともに、計画的な土地利用を進め、66,000haの優良農地の確保に努めます。また、冬期温暖な気象条件を活かした多様な農作物を生産拡大し、食料自給率向上に貢献できるよう、耕地利用率の向上を目指します。

(単位：ha、%)

| 項目 | 基準年次 (平成15年) | 中間年次 (平成21年) | 計画年次 (平成26年) | 対 比 | |
|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| | | | | 21年/15年 | 26年/15年 |
| 耕地面積 | 70,600 | 68,000 | 66,000 | 96.3 | 93.5 |
| 田 | 38,400 | 37,400 | 36,300 | 97.4 | 94.5 |
| 畑 | 32,200 | 30,600 | 29,700 | 95.0 | 92.2 |
| 普通畑 | 26,000 | 25,300 | 25,000 | 97.3 | 96.2 |
| 樹園地 | 5,020 | 4,200 | 3,700 | 83.7 | 73.7 |
| 牧草地 | 1,170 | 1,100 | 1,000 | 94.0 | 85.5 |
| 1戸当たり耕地面積 | 1.32 | 1.44 | 1.55 | 109.1 | 117.4 |
| 耕地利用率 | 109.9 | 117.8 | 124.3 | 107.2 | 113.1 |

2 農業生産の目標

(1) 作付(栽培)面積・飼養頭羽数

本県の農業生産力の維持・発展を図るため、優良農地の確保・利用集積や遊休農地の有効活用、水田裏作等の生産拡大による農地の高度利用を進めるとともに、施設化・省力化などによる生産性の高い農業の展開に努めます。

(単位：ha、頭、千羽、%)

| 項目 | 基準年次 (平成15年) | 中間年次 (平成21年) | 計画年次 (平成26年) | 対 比 | |
|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| | | | | 21年/15年 | 26年/15年 |
| 稲 | 21,000 | 21,700 | 21,900 | 103.3 | 104.3 |
| 麦類 | 96 | 100 | 100 | 104.2 | 104.2 |
| 雑穀・豆類 | 1,179 | 1,230 | 1,250 | 104.3 | 106.0 |
| うち 大豆 | 570 | 800 | 800 | 140.4 | 140.4 |
| いも類 | 2,100 | 2,490 | 2,670 | 118.6 | 127.1 |
| うち 原料用かんしょ | 989 | 1,400 | 1,600 | 141.6 | 161.8 |
| うち 食用かんしょ | 1,111 | 1,090 | 1,070 | 98.1 | 96.3 |
| 野菜 | 11,100 | 11,112 | 11,038 | 100.1 | 99.4 |
| うち 果菜類 ^{※5} | 2,745 | 2,751 | 2,735 | 100.2 | 99.6 |
| うち 根菜類 | 5,741 | 5,700 | 5,605 | 99.3 | 97.6 |
| うち 葉茎菜類 ^{※6} | 1,869 | 1,916 | 1,953 | 102.5 | 104.5 |
| 果樹 | 3,750 | 3,223 | 2,606 | 85.9 | 69.5 |
| 花き | 1,124 | 1,086 | 1,035 | 96.6 | 92.1 |
| うち 切り花類 | 440 | 409 | 378 | 92.9 | 85.8 |
| うち 鉢物類 | 35 | 36 | 39 | 103.7 | 112.0 |
| うち 苗物類 | 60 | 63 | 70 | 105.0 | 116.3 |
| 工芸農作物 | 4,045 | 4,050 | 4,350 | 100.1 | 107.5 |
| うち 茶 | 1,430 | 1,700 | 2,000 | 118.9 | 139.9 |
| うち 葉たばこ | 2,565 | 2,300 | 2,300 | 89.7 | 89.7 |
| 飼料作物 | 32,100 | 34,100 | 36,200 | 106.2 | 112.8 |
| その他 | 1,106 | 1,000 | 871 | 90.4 | 78.8 |
| 計 | 77,600 | 80,091 | 82,020 | 103.2 | 105.7 |
| 耕地面積 | 70,600 | 68,000 | 66,000 | 96.3 | 93.5 |
| 耕地利用率 | 109.9 | 117.8 | 124.3 | 107.2 | 113.1 |
| 飼養頭羽数 | | | | | |
| 肉用牛 | 266,900 | 286,000 | 306,000 | 107.2 | 114.6 |
| 乳用牛 | 21,900 | 21,000 | 21,000 | 95.9 | 95.9 |
| 豚 | 849,400 | 870,000 | 888,000 | 102.4 | 104.5 |
| 採卵鶏 | 4,171 | 4,100 | 4,100 | 98.3 | 98.3 |
| ブロイラー | 17,158 | 18,000 | 18,000 | 104.9 | 104.9 |

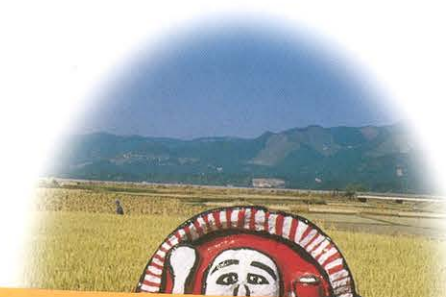
※1 販売農家 経営耕地面積が30a以上または農産物販売額が50万円以上の農家
 ※2 主業農家 農業が主(農業所得の50%以上が農業所得)で、65歳未満かつ農業従事日数60日以上の方がいる農家
 ※3 耕地面積 農作物の栽培を目的とする土地の面積。けい群を含む
 ※4 耕地利用率 耕地面積(けい群を含む。)を100とした作付延べ面積の割合
 ※5 果菜類 きゅうり、ピーマン等の実を食べる野菜の総称。なお、データはいちご、メロン、すいかなどの果実的野菜を含む
 ※6 葉茎菜類 はくざい、キャベツ、ねぎ等の葉や茎を食べる野菜の総称。なお、データにはレタス、セルリー等の西洋野菜を含む

(2) 農業産出額

農業産出額は、ここ数年、3,100億円前後で推移していますが、農業従事者の減少が見込まれる中で、産出額を維持・拡大するため、担い手個々の規模拡大や法人化、集落営農組織化の積極的な推進を行い、平成26年には農業産出額3,400億円の達成を目指します。

(単位：億円、%)

| 項目 | 基準年次 (平成15年) | 中間年次 (平成21年) | 計画年次 (平成26年) | 対 比 | | |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|-------|
| | | | | 21年/15年 | 26年/15年 | |
| 耕種部門 | 米 | 258 | 245 | 250 | 95.0 | 96.9 |
| | 野菜・いも類 | 766 | 789 | 811 | 103.0 | 105.9 |
| | 果実 | 116 | 122 | 132 | 105.2 | 113.8 |
| | 花き | 143 | 149 | 153 | 104.3 | 106.8 |
| | 花木・地被植物を除いた額 | 115 | 126 | 131 | 109.4 | 114.2 |
| | 工芸農作物 | 121 | 155 | 166 | 128.1 | 137.2 |
| | うち 茶(生葉) | 25 | 34 | 44 | 136.0 | 176.0 |
| | うち 葉たばこ | 96 | 120 | 120 | 125.0 | 125.0 |
| | 種苗・その他 | 3 | 4 | 6 | 133.3 | 200.0 |
| | 耕種計 | 1,407 | 1,464 | 1,518 | 104.1 | 107.9 |
| 畜産部門 | 肉用牛 | 502 | 518 | 564 | 103.2 | 112.4 |
| | 乳用牛 | 111 | 115 | 120 | 103.6 | 108.1 |
| | 豚 | 456 | 480 | 510 | 105.3 | 111.8 |
| | 鶏 | 599 | 635 | 635 | 106.0 | 106.0 |
| | その他畜産物 | 3 | 3 | 6 | 100.0 | 200.0 |
| | 畜産計 | 1,671 | 1,751 | 1,835 | 104.7 | 109.7 |
| 加工農産物 | 29 | 35 | 47 | 120.7 | 162.1 | |
| うち 荒茶 | 15 | 21 | 26 | 140.0 | 173.3 | |
| 合計 | 3,108 | 3,250 | 3,400 | 104.6 | 109.4 | |



- 必ず返す期限をまもりましょう。
- この本に目じるしを書きこんだり、折目をつけたり、よごしたりしないように大切に読みましょう。
- 返さないうちにこの本を、他の人に貸すと本がなくなる原因になります。



元気みやざき農業・農村創造計画

～第六次宮崎県農業・農村振興長期計画～

[概要版]

発行／宮崎県農政水産部農政企画課

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL. 0985-26-7123
FAX. 0985-26-7307

宮崎県ホームページアドレス

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp>

みやざきの食リネサンス運動



地産地消と食育

宮崎県農政水産部



この冊子は再生紙を使用しています。